

① 強風  
② 教わる  
③ 新米

④ 羽毛  
⑤ 東西

② 1 おす  
2 ジカ  
2 出産

〔おすじか・オスジカ・オスじかは2点減点〕

3 えさを食べ  
4 群れの行動

5 A オ  
B イ

6 I 1  
II 2  
III 2

③ 1 ゆり子(さん)  
2 メ

3 A エ  
B サ  
ン  
タ  
ク  
ロ  
ー  
ス

C イ  
D 白  
い  
わ  
た  
の  
ひ  
げ

4 お  
て  
っ  
だ  
い

5 も  
よ  
う  
6 ウ

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「強風」は強い風。「強」の「虫」の部分ぶぶんを正しく六画で書くこと。  
 ②「教わる」は教えてもらうこと。「教える」とは立場が反対になることばである。③「新米」はその年にとれた米。新しく仲間なかまに加わった人、その仕事を始めて間がなく不慣れな人の意味でも用いる。④「羽毛」は鳥類の羽。ふとんや防寒ぼうかん着ぎに使うと温かい。⑤「東西」は東と西、またはその方向。東洋と西洋の意味で用いることもある。「つらぬいて」ははしからはしまで突き通してということ。

②

1 「めずジカ」と対(ト)になるのは当然「おすジカ」である。問いをよく読んで、何が問われているのかをしっかりとつかもう。また、ひらがな・カタカナの表記は、本文中の「めずジカ」に合わせるべきである。  
 2 「結婚」ではない。「結婚」は「秋」である。「五月も半ばをすぎると」とあるので「春から夏にかけて」のころである。また、「おなか」が、大きくふくらんで」とあり、「おなかに子どもがいる」とある。  
 3 直後にはつきりと書いてある。ほ乳類の母と子はずつといっしょにいるイメージが強いが「シカの親子」はちがうようである。

4 少しあとに「子ジカは、しげみや草むらでじつとしていての方が安全」とある。「きけん」かどうかということなので「安全」ということばが答えのヒントになっている。「群れの行動についていくだけの体力が、まだない」というのは、歩くのが遅くて群れからはぐれたり、敵が現れたときに逃げ遅れたりすることであろう。内容の点で理解できていたとしても、「一文」の「はじめの五字」を答えるという問いの条件を守れないと正解にはいたらない。

5 A しげみでは、からだのはんもんのおかげで敵から姿をくまますことができる。↓ また ↓ 草むらの草たけが高いので、うずくまると敵に見つからない。

(「母ジカ」と「いっしょ」にいるよりも「しげみや草むらでじつとしていての方が」「子ジカ」が「安全」である理由を並べている)

B 子ジカは草を食べるしぐさをする ↓でも ↓ 食べてはいない。  
 (まねだけで実際にはやっていないという部分である)

6 I 本文の最後のところにある通りである。「出産」の前後は「群れからはなれて」くらす、 「子ジカ」が「成長」するともどってくるのであった。

II 「夜はずつといっしょ」とあった。「授乳のときだけ」「いっしょ」なのは昼の間のことなのである。  
 III 「子ジカ」が「やっと立てるようになった」のは「めずジカ」が「山の中にきて」から「数日後」のことであった。

③

1 「ねこさん、ここよ」と続いている。「ねこ」に話しかけているのは「ゆり子さん」である。

2 「メリー」は陽気な、楽しい、愉快なという意味のことばである。「メリー・クリスマス」は楽しいクリスマスを(お過ごしください)という意味の、クリスマス用のあいさつである。

3 A 「まるで」はたとえ表現の前につけて、とてもよく似ているという意味をつけ加えることばである。ここでは「白いぼうしをかぶったおにいさんたち」が「ケーキ」をつくるようすが「手品」のようにあざやかだということである。

B 「クリスマス・イブ」に「赤い服」「赤い長ぐつ」「赤いぼうし」「白い」「ひげ」のいでたち(ト)かっこう)をしている。  
 C 「こうですか」の「こう」は「おぎょうぎよく見える」立ち方のことを指している。「ケーキ」をつくる「おてっだい」のつもりで来たのに「サンタクロース」の「かっこう」をさせられた。そのわりには「おぎょうぎよく見えるように」しているし、「なるべく大きな声で」という注文にも素直に従っているのだから、ア「いやですよ」やウ「なぜですか」はあてはまらない。この「店」にきたのは初めてなので、エ「またですか」もあてはまらないだろう。

D 「ケーキ」を食べたりしていないので「クリーム」や「チョコレート」などのことではない。「サンタクロース」の「口のまわり」にあるものである。

4 あとに「なにからおてっだいしましょう」とあって、「クリームですか。チョコですか」と続いている。ケーキの「店」の「おてっだい」をするつもりで来たから、「エプロン」を身につけているのである。

5 「クリーム」ということばをさがせばわかっただけである。「つける」ということばもヒントになっている。

6 「ケーキ」づくりの「おてっだい」より「もっとだいなお仕事」は、「サンタクロース」の「かっこう」をして「店の前」の「クリスマス・ツリーのそばに立って」「なるべく大きな声」で「おいしいクリスマス・ケーキはいかがですか」ということであった。